

「若手教員と中堅教員を一体的に育成する『若手・中堅教員育成セミナー』」

調査の概要

◆課題認識

- 中堅教員は若手教員の育成に重要であるが、若手教員が増加している反面、中堅教員が非常に少ない。
- 中堅教員が少ない中、メンター方式等による研修は学校内だけでは難しい状態にある。

◆調査研究の目的

- 中堅教員が抱える指導力に関する不安等を明らかにすること
- 自治体、管理職、若手・中堅教員のニーズに応える校内体制、研修体制の充実を図ること

◆調査研究の方法

- 実態を調査するための視察、ヒヤリング、アンケートの実施
- シンポジウムによる情報交換・情報収集

◆調査研究校

- ＜先進地域＞
 - 仙台市教育委員会、横浜市教育委員会、熊本県産山村教育委員会、沖縄県宮古島市教育委員会ほか
- ＜実態調査校＞
 - 先進地域の小中学校7校
- ＜シンポジウム参加自治体＞
 - 新潟県、長野県、富山県、石川県、山形県、埼玉県、秋田県、福井県、横浜市、仙台市、新潟市

◆現状

- 中堅教員は、若手教員より不安の度合いは下がっているものの若手教員と同内容の不安を感じている。
- 教員への各自治体のニーズは教員育成指標に表れているが、教員への意識化や研修等での活用は、十分とは言えず、研修体制等を整える必要がある。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- 視察調査やヒヤリングを通して、中堅教員が少ない状況での研修の在り方や研修が必要となる中堅教員の役割と期待される資質・能力について検討した。

②ポイントB

- 「若手・中堅教員育成シンポジウム」を開催し、基調講演や11の自治体の実践発表により、教員育成指標の活用や研修体制について情報収集を行った。

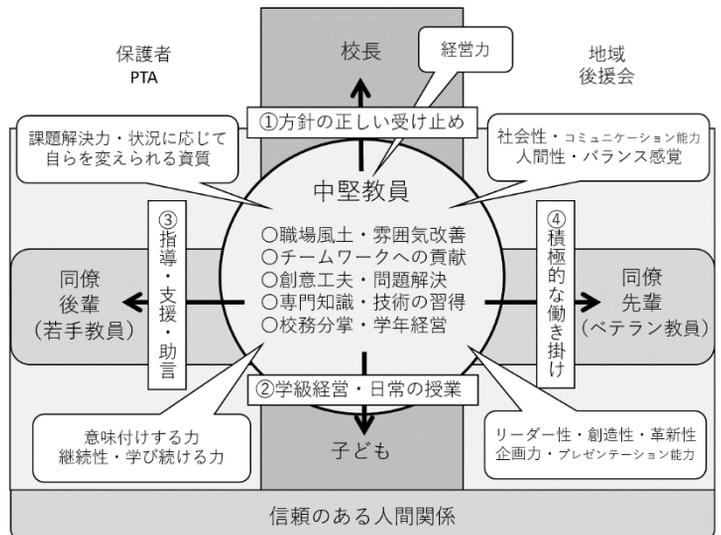
③ポイントC

- 11回の若手教員育成セミナーを実施するとともに、アンケート結果に基づいて中堅教員と一体的に取り組めるセミナーの内容と方法を検討した。

◆成果

- 中堅教員の研修で必要となる「中堅教員の役割と期待される資質・能力」を図1のように整理した。
- 中堅教員が少ない状況やニーズを踏まえて、4つのモデルプランを作成した。

＜図1 中堅教員の役割と期待される資質・能力＞



今後の課題

◆それぞれのキャリアステージにおけるキャリアアップの具体的取組

- 新しい研修モデルプラン「教師力向上セミナー」の本格実施とキャリアアップの意識化
- 現職教員育成と教員養成との一体的取組（「教師力向上セミナー」への学生参加）
- 校長と教員の資質向上に関する指標と研修の効果的な連動（研修管理システムの構築）